

KUNILABO 人文学学位論文出版助成 2022

NPO 法人国立人文研究所では昨年、5周年記念事業として学位論文の出版助成を行いました。2022年度も引き続きこの事業を継続することができることになりました。助成対象となった論文は勁草書房様より出版されます。今年も博士論文執筆を終え、出版を検討されている人文学の研究者のみなさま、是非ふるってご応募くださいますよう、よろしくお願いいたします。

昨年同様、今年の出版助成も KUNILABO の講座をたくさんの方に受講いただいたことにより可能となりました。あらためまして受講生のみなさん、講師をご担当いただいた先生方、サポートいただいたボランティアのみなさんにお礼申し上げます。今年も多くのご応募お待ちしております。詳細は以下の募集要項をご覧ください。

2022年4月1日

NPO 国立人文研究所 代表
大河内泰樹

KUNILABO 人文学学位論文出版助成 募集要項

1. 名称：KUNILABO 人文学学位論文出版助成

2. 目的

- ・国立人文研究所の目的の一つである人文学の若手研究者支援と同時に、最新の研究成果を世に出すことによって人文学の振興に資すること。

3. 助成対象

- ・日本語で書かれた人文学に関する未刊行の博士学位論文、ないしは博士学位論文をもとにした日本語の論文1件。

4. 助成内容

- ・助成対象となった論文は勁草書房より「KUNILABO 叢書（仮）」として刊行される。
- ・刊行費用は国立人文研究所が負担する。（ただし、文字数が30万字を超える場合や図版を含むなど特殊な事情のある場合には自己負担が必要になる場合がある。）

5. 応募資格

- ・2021年6月末日時点で過去5年以内に博士号を取得した者。
- ・2021年6月末日時点で研究者としての常勤職（テニユア）を持たない者。

6. 応募条件

- ・人文学に関する学位論文ないしは学位論文を元にした未刊行の論文であること。
- ・日本語で書かれたものであること。（外国語で書かれた論文の日本語訳も可）
- ・助成決定後1年以内に刊行すること。
- ・助成決定にあたっては2023年春に予定されているKUNILABOのイベントでスピーチをお願いいたします。またそのスピーチ原稿を国立人文研究所HP上で公開することをお認めください。
- ・助成を受けた方には、出版後2年以内に、KUNILABOにて講座のご担当（半期）をお願いする予定です（有償）。

7. 応募書類

- 応募用紙 [様式に記入してください。 <https://www.kuniken.org> からダウンロードできます]
- 要旨 大学に提出された学位論文の要旨でもよい（Wordないしpdfファイル）
- 出版用原稿（Wordないしpdfファイル）

8. 〆切りおよび提出先

以上の書類を2022年6月末日までに kunilabo_promotion@kuniken.org まで提出してください。

9. 審査結果発表

2022年12月頃。

審査結果は応募者にメールで通知するとともに、助成決定論文はNPO法人国立人文研究所（および勁草書房）HPにて発表します。

10. 問い合わせ先

NPO法人国立人文研究所（くにたちじんぶんけんきゅうじょ）

kunilabo_promotion@kuniken.org

tel: 080-3558-9200

※できるだけメールでのお問い合わせをお願いします。

2022年度 環境研究助成 募集要項



公益財団法人 住友財団
The Sumitomo Foundation

人類が直面している最大の問題の一つである環境問題の解決・改善に資する研究に対して、以下のとおり助成を行います。なお、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大に伴う対応によっては、募集等に影響が及ぶ場合がございますのでご理解いただきたいと存じます。

— 般 研 究	課 題 研 究
---------	---------

1 助成対象研究

<p>環境に関する研究</p> <p>分野は問いません。環境問題の解決・改善のためには、多面的アプローチによる分析と様々な対応策の構築が必要と考え、そのためのいろいろな観点（人文科学・社会科学・自然科学）からの研究に対する支援を行うものです。</p> <p>なお、引続き東日本大震災等震災関連の研究や放射能汚染などの原発事故に関わる研究も歓迎します。</p> <p><例></p> <p>自然科学分野 大気圏、水圏、地圏、生物圏等の環境に関する研究 省エネ・省資源、廃棄物処理等対策技術の研究</p> <p>人文・社会科学分野 環境問題の分析・評価、環境計画 環境問題に関する政策的研究</p> <p>その他環境に関する総合的研究</p>	<p>本年度募集課題</p> <p>「ウイズ・ポストコロナ時代における環境問題の理解および解決のための学際研究または国際共同研究」</p> <p>新型コロナ禍は収束の兆しが見えず、社会構造にも人々の行動にも大きな影響を与えている。不織布マスク、医療現場での手袋やワクチン注射筒など世界中で多量の使い捨てプラスチックが使われ、新たな環境問題を引き起こしている。リユース、シェアといったこれまで環境に良いと思われていた行動にも再考が必要かもしれない。さらに、AIやIOTなどデジタル化社会の高度化が進んでいるが、その大きな恩恵の影には、スーパーコンピュータやビッグデータ保存、AI搭載機器による大量な電力消費等々、新たな資源問題や環境問題も浮上している。一方で、異常気象による災害はますます頻発化しており、地球温暖化、地球規模の環境汚染、水や食糧の不足、天然資源の枯渇など問題は深刻化かつ重層化している。</p> <p>本課題研究は、ウイズコロナ、ポストコロナ時代における環境問題の構造を理解し、その解決を目指す包括的な学際研究を募集する。具体的には、脱炭素社会、農業・漁業・林業における自然の保全及び産業としての維持、海陸の生態系の回復、持続可能なエネルギー、再生可能な資源の持続的利用に向けての取り組み、地域固有または地球規模の大気・海洋汚染、マイクロプラスチック、有害化学物質などによる環境劣化、衛生の問題の解決などの諸領域において、独創的な研究(地球規模の課題の場合、国際的な共同研究も)を期待する。自然科学的アプローチだけでなく、コロナ禍における人間行動や社会経済システムがどう変化したか・すべきかを探求する人文社会科学のアプローチまたは双方に跨る学際的アプローチも歓迎する。</p> <p>【課題研究応募について(補足説明)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記募集課題に沿った研究テーマであれば、基礎研究、個人研究でも構いません。 ・年齢や職位にとらわれず若手研究者でも構いません。
--	---

2 助成金額と件数

総額	7,000万円	総額	3,000万円
1件当たりの助成額	最大500万円	1件当たりの助成額	最大1,000万円
助成件数	50件程度	助成件数	3件程度

3 助成期間

原則として1年間 (2022年11月～2023年10月) 助成期間中に必要な場合は 2年間を限度として延長可	原則として2年間 (2022年11月～2024年10月) 助成期間中に必要な場合は 2年間を限度として延長可
--	--

4 応募資格

研究者個人または研究グループ

①国籍に関係なく、日本の大学等の研究機関に所属し、申請に関する所属機関の長(大学の場合は学科長・学部長以上)の承諾がとれるのであれば応募可能です。

②上記①以外であっても、日本国籍を持つ者または日本に永住を許可されている外国人は応募可能です。なお、海外の大学等の研究機関に所属している者は申請に関する所属機関の長の承諾を得ることが必要です。

①、②とも申請書は、日本語または英語の記入を可としますが、英語の場合は申請書の1ページの研究テーマだけは日本語を併記して下さい。連絡担当者は、日本語で連絡または照会できる連絡担当者(本件に対応可能な方であることを)を指定し記入して下さい。

なお、申請者の所属が営利企業等(兼務を含む)の場合には応募不可です。

【注意】

- 申請者(グループの場合は代表者)が研究計画の推進に責任を持ち、助成金の管理及び助成期間満了後の報告を確実にこなすことを条件とします。
- 申請者は、本年度当財団の研究助成に複数または重複して応募は出来ません。なお、他の申請者の共同研究者として名前が記されることは問題ありません。

5 助成対象となる費用

研究に直接必要な経費

但し、以下に記載した費用は対象外とします。

- 申請者及び共同研究者の人件費
- 汎用性のある機器(例:パソコン、ファクシミリ、複写機)の購入費
(但し、助成対象研究に特に必要なパソコン等の機器は可とします)
- 申請者が所属する組織の間接経費・管理経費・共通経費

6 助成の対象とならない研究

営利目的、または営利につながる可能性の大きい研究

他の機関からの委託研究

実質的に完了している研究

7 助成対象者の義務等

助成対象者は、当財団と「合意書」を締結し、助成期間満了後に研究の経過・結果、及び会計に関する報告を提出して頂きます。提出された研究成果報告書は住友財団のホームページ等で公開されます。研究成果を発表する場合には、当財団の助成を受けたことを明示して頂きます。

8 選考手続

当財団の選考委員会にて選考のうえ、2022年10月頃開催予定の理事会にて決定し、直ちに採否を電子メールで各申請者に連絡します。なお、採否の理由についてのご照会には回答致しかねますのでご了承下さい。

9 選考基準

以下諸点に重点を置き選考します。

- 社会性 研究目的に対する学術的・社会的要請が大きいもの
- 実現性 研究計画が十分に検討されていて目的達成の可能性が高いもの
- 独創性 独創性に優れ、他の研究の端緒となる可能性のあるもの
- 境界性 従来の学問の分野の境界にあるもの
- 必要性 政府・企業等の補助、助成が得難い等、当財団の助成の必要性が高いもの

10 応募手順

2022年度よりオンライン（インターネットを通じた）申請方式となります。

住友財団ホームページ (<http://www.sumitomo.or.jp/>) にアクセスし、日本語または英語で記載した申請書類を提出して下さい。申請書類は、①当財団所定の様式による「申請書」、②当該研究に係る所属機関の「承諾書」（大学等の研究機関に所属しない場合は②は不要）となりますが、詳細は「応募手順及び申請書記入要領」に従って作成して下さい。4月15日の募集開始まで応募ページへのアクセスはできません。なお、ご提出いただいた申請書類等は返却いたしません。

《個人情報の取扱いについて》

申請書にご記入頂いた個人情報は、選考及び選考結果のご通知のために使用します。助成が決定した場合は、申請書にご記入頂いた助成対象者のお名前、所属、職位及び助成対象研究テーマと、助成金額を公表します。尚、応募システムの運営を外部業者に委託しておりますので、入力時に個人情報の取扱いについて同意を頂きます。

11 応募期間

応募開始： **2022年4月15日（金）**

応募締切： **2022年6月30日（水）日本時間24：00**

申請書類を受付け後、登録されたメールアドレス宛に受付番号がメールで送付されます。メールが届かない場合は、できる限り申請された翌日までにメールで以下の宛先まで、必ずご照会下さい。なお、申請書に不備がある場合は、申請の受付を取り消すこととなりますのでご注意ください。

12 応募・お問い合わせ先

105-0012 東京都港区芝大門 1-12-16 住友芝大門ビル2号館

公益財団法人 住友財団

TEL 03-5473-0161 FAX 03-5473-8471

E-MAIL environment@sumitomo.or.jp

URL <http://www.sumitomo.or.jp>

予 告

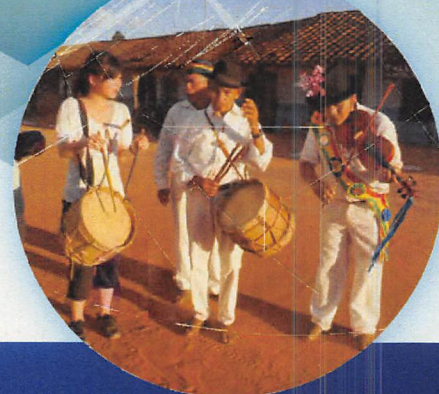
2023年度課題研究助成の募集課題は

2022年10月頃に発表の予定です。

松下幸之助国際スカラシップ

人文科学・社会科学領域

2022年度 募集要項



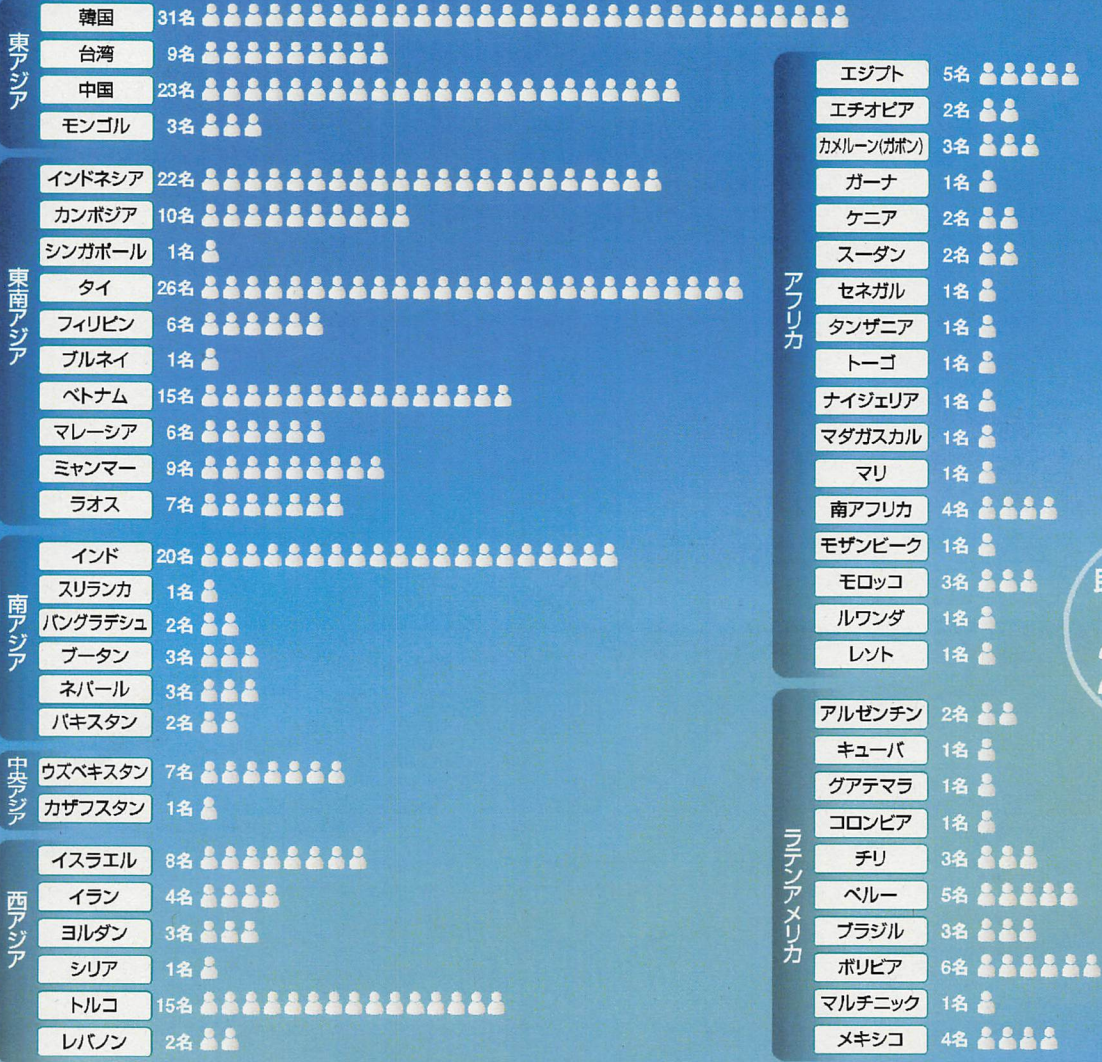
募集人員	5名程度(学部生) 15名程度(大学院生・研究機関在籍者)
応募書類・受付期間	2022年6月1日(水)~7月25日(月)
選考方法	9月上旬(書類選考) 9月19日(月)(面接選考) ※書類選考合格者のみ
採否通知	10月中旬
渡航時期	2023年2月中旬の認定式後 2024年3月までに出発

公益財団法人

松下幸之助記念志財団



助成対象者 国別実績



助成対象者
累計
299名

特典
2

ブックレット出版に 応募のチャンス!

- 留学研究成果をブックレットとして出版する応募権



ブックレットとして出版

特典
3

出版助成に応募の チャンス!

- 留学研究成果を単著の学術書として刊行



松下正治記念学術賞として出版

松下幸之助国際スカラシップ

「諸外国との相互理解による国際社会への貢献」に

寄与する研究(人文科学・社会科学の領域)を志す海外留学を

以下の2カテゴリーで助成します。

カテゴリー

1

学部生の留学助成

カテゴリー

2

大学院生・研究機関在籍者の留学研究助成

・世界的な視野に立った研究

・諸施策の提案、調査研究活動

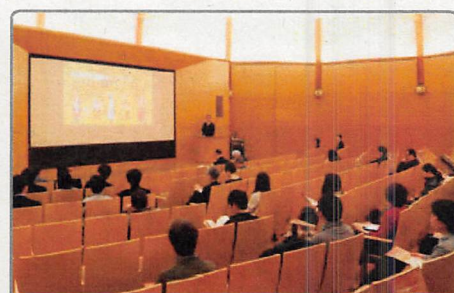
研究・留学帰国後のスカラシップOBの助成・特典について

特典

1

松下幸之助国際スカラシップフォーラムでの発表のチャンス!

- スカラシップでの留学研究成果を発表するフォーラムに参加
- 毎年10月に開催
- 発表者を対象にプレゼンテーション研修会で応援



助成対象研究

アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国の大学・大学院及び政府研究機関に所属しての調査研究
 この場合のアジアとは西は西アジア*¹、中央アジア*²、北はモンゴル、南はインドネシアまでとします。
 アフリカはアフリカ大陸と周辺の島嶼部。ラテンアメリカはメキシコ以南(カリブ海地域を含みます。)

※1:アラビア半島6カ国、アフガニスタン、イラン、イラク、イエメン、レバノン、シリア、ヨルダン、イスラエル、トルコ、キプロス

※2:カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタン

●アジア、アフリカ、ラテンアメリカ研究のための 米、欧、豪州などへの留学・研究は対象外とします。

●調査研究を計画するにあたり、外務省の海外安全ホームページにある渡航情報に十分留意してください。

助成の概要

	カテゴリー 1 学部生	カテゴリー 2 大学院生・研究機関在籍者
応募資格・条件	応募時と助成(留学)期間中は日本の大学に学部生として在籍する者	応募時と助成(留学)期間中は日本の大学・大学院ないしは研究機関に学生・教員・研究員として在籍する者 ※学部生として当留学助成の対象となった者は大学院等に進学した場合でも再度応募可能
	日本国籍を有する者(海外在住者は除きます。)	
	日本国に永住を許可されている者	
	認定式(2023年2月中旬を予定)出席後から2024年3月までに留学・研究を開始する者 ※但し、同期間中に留学・研究が開始できるよう、留学・研究先の選定・入学手続きに関しては申請者本人が行うものとします。 ※所属大学の「交換留学制度」の活用も可	
	留学・研究する大学等において研究を進めるに十分な語学力を有する者	
	2022年4月1日時点で年令40才未満である者 他の奨学金を受給していない者(併願の場合、結果判明次第、当財団と相談してください。)	
募集人員	5名程度	15名程度
支給期間	9ヶ月～12ヶ月(1年) ※学修の都合に応じて	1年～2年 ※3ヶ月単位
奨学金	月額14万円	
	●生活費、入学金、授業料、及び書籍代等研究に必要な諸経費、ならびに保険料など全て含みます。	
	●支給開始は、入学許可証(または受入許可証)及び入国査証提出後とします。	
渡航費	1往復分相当の補助 ※支給額は、渡航先、地域などにより異なります。(財団規定により設定)	
奨学生の義務等	●奨学金受領の際に近況を報告してください。(3ヶ月ごと)	
	●留学・研究期間終了後1ヶ月以内に成果報告書及び会計報告書を提出してください。	
	●認定式(2023年2月中旬を予定、於:大阪市内)に出席してください。	
	●フォーラム等、財団が行う関連の行事に参加してください。	
奨学金支給の停止	次のいずれかに該当するときは、奨学金の全部または一部の支給を停止又は返納を要請します。 - 留学・研究先で在籍する機関から除籍された場合 - 病気その他の事由により所定期間内において目標の達成が困難と当財団が判断した場合 - 申請書類に虚偽の記載があった場合 - 奨学生に相応しくない行為があった場合 - 上記奨学生の義務を怠った場合	

選考方法

当財団の選考委員会において、スカラシップの目的に合致する有為な人材を厳正かつ公平な選考にて決定します。

- 1次 書類選考(9月上旬に1次選考結果を通知します。)
- 2次 面接選考(時期:9月19日(月)、対象:1次合格者、会場:京都)

採否の通知

「採否」の結果は、10月中旬に電子メールにて通知します。

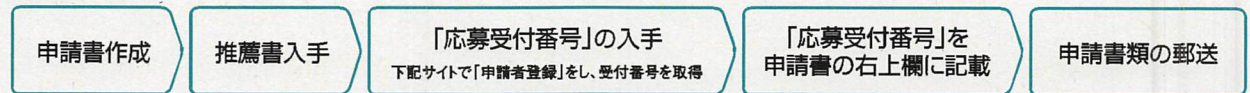
結果の理由に関するお問い合わせには応じかねますのでご了承ください。

申請書の入手方法

申請書は、財団のホームページに掲載していますので、ダウンロードしてご使用ください。

- 1 カテゴリ 学部生用 https://matsushita-konosuke-zaidan.or.jp/works/jpn/data/2022_mk_shin_gakubu.docx
- 2 カテゴリ 大学院生・研究機関在籍者用 https://matsushita-konosuke-zaidan.or.jp/works/jpn/data/2022_mk_shin.docx

申請方法



申請者登録サイト: <https://matsushita-konosuke-zaidan.or.jp/system/src/form/application.php?mode=3>

- ・下記申請書類(原本一式)を当財団 大阪事務所「松下幸之助国際スカラシップ」係あてに一般書留、簡易書留、レターパックプラス等にて郵送してください。
- ・パソコン(Word)をご使用いただき直接申請書に必要事項を打ち込んでください。
- ・フォントは「12」以上(原則)で記入(但し、No.1 奨学金申請書は除く)してください。
- ・申請時には指導教員 或いは適切と思われる関連分野の専門家(1人に限る)の推薦書を原則として申請書と同封にて送付ください。

申請書類

	<small>カテゴリ</small> 1	学部生	<small>カテゴリ</small> 2	大学院生・研究機関在籍者
No.1	奨学金申請書			
No.2~No.3	留学計画書		研究計画書	
No.4	経費計画書			
No.5	自薦書			
No.6	推薦書 ※指導教員、或いはそれに準ずる者の推薦			

注意事項

- 記載紙面の追加、規格外の紙面の使用および資料添付は受付いたしません。
- 極端に小さな文字を使い字数の多い(縮小コピー貼付も同様)申請書類は受付いたしません。
- 提出いただいた申請書類等は、返却いたしませんので必ずコピーを保管してください。
- 申請書類および推薦書の到着後1週間以内に受領連絡いたしますので、未着の場合は照会願います。
- 申請書類が著しく不備な場合(乱雑な文字も含む)選考対象外になることがあります。

応募書類受付期間:2022年6月1日(水)~7月25日(月)必着

ご応募のお問い合わせは原則としてEメール ajisuka@gg.jp.panasonic.com でご連絡ください。
ホームページの「FAQ」も事前にご確認ください。

ご応募・お問合せ先

公益財団法人 松下幸之助記念志財団
大阪事務所

K.MATSUSHITA FOUNDATION

〒571-8501 大阪府門真市大字門真1006
1006 Kadoma, Osaka 571-8501, Japan

TEL.06-6908-4488 FAX.06-6908-5817

✉ ajisuka@gg.jp.panasonic.com

2022年5月発行

2023年度「台湾奨助金」(Taiwan Fellowship) 募集要項

- 一、 中華民國(台湾)外交部(外務省に相当)は、台湾の研究、あるいは兩岸關係や中国大陸及びアジア太平洋地区の研究、並びに漢学研究を志す世界の研究者が台湾の各大学または學術機關において研究を行い、學術交流を促進することなどを奨励するため、台湾奨助金ガイドラインを策定した。
- 二、 本奨助金の研究領域：台湾、兩岸關係、中国大陸、アジア、太平洋地域、漢学研究などの社会科学及び人文分野を主とする。
- 三、 本奨助金の対象：海外の大学及び関連各部の**外國籍教授、准教授、助教、博士論文執筆者及び學術機關の同等級別の研究者**。但し現在すでに台湾で研究、講義、研修に従事している研究者は対象としない。
- 四、 本奨助金の待遇および支給期間：
 - (一) 最短経路の往復航空券1枚(エコノミークラス)。
 - (二) 研究補助費は毎月の月初めに支給され、金額は二段階に分類される。
 - 1・教授、准教授、研究員、副研究員：6万台湾元
 - 2・助教、研究助手、博士論文執筆者：5万台湾元
 - (三) 本奨助金の支給期間は最短で3カ月、最長で1年とする。プロジェクトは2023年1月1日から実施され、2023年12月31日に完了する。但し、新型コロナウイルス感染症対策によりプロジェクト開始時期が変更される可能性がある。
 - (四) 台湾滞在研究期間中の最大100万台湾元の団体事故傷害保険の提供(事故傷害による医療保険金5万台湾元が付きます)。
- 五、 定員：

◆外交部が毎年人数を決定。
- 六、 応募手続き・受付期間：

2022年5月1日～6月30日までに台湾フェロシップの応募ホームページ(taiwanfellowship.ncl.edu.tw)から申し込みをすること。その後、当弁事処宛に下記の書類を郵送すること。

 - (一) 申請書(上記サイトにて必要事項を記入後に印刷したもの)
 - (二) 履歴書(著作目録を添付すること)
 - (三) 研究計画(A4版3ページ程度)
 - (四) 推薦状2通或いは推薦状1通と所属機関最高責任者による同意書1通

※上記の書類は中文または英文で作成すること
- 七、 選考結果の発表：2022年11月上旬

【合格者は本奨助金の候補者と認められる。台湾の大学又は研究機関が発行する台湾での研究受入同意書を取得した後、正式に本奨助金を受給できる】

八、審査選考：

- (一) 本ガイドラインに基づき、在外公館(台北駐大阪経済文化弁事処)が申請書類を受理、書類審査及び学術的影響力または潜在力を検討する。
- (二) 在外公館(台北駐大阪経済文化弁事処)により推薦された研究者の推薦理由は外交部に報告され、選考時の参考とされる。
- (三) 審査・選考は外交部により招聘された学者・専門家および各地域局の代表によって組織された選考委員会によって行われる。

九、本奨助金受給者の遵守規定：

- (一) 本奨助金の支給決定を受けた者(受給者)は、選考時に提出した研究計画及び研究分野を原則として変更できない。やむを得ず変更とする場合は、事前に外交部からの同意を得なければならない。
- (二) 受給者は同計画終了後3カ月以内に研究結果(A4版20ページ以上)を外交部に提出しなければならない。また台湾滞在期間中に外交部又は委託機関が開催するシンポジウムや発表会に出席しなければならない。
- (三) 受給者は奨助金支給期間において、わが政府機関、公私立学校、その他学術機関が設けたあらゆる奨助金を同時に受領することはできない。なお、外交部の同意を得なければ、兼職は禁止である。
- (四) 台湾滞在中は中華民国法律に従うこと。刑事法に違反して起訴された場合、受給者資格は停止される。
- (五) 受給者が本奨助金による研究成果などを公表する場合は、本奨助金の助成である旨を明示すること。
- (六) 受給者は自らが計画を立てて台湾研究訪問の手配を行うこと。
- (七) 受給者は台湾への到着日及び台湾からの出発日などの旅程、また受け入れ研究機関の資料を、必ず出発前に当弁事処に提供すること。

十、その他：

受給者の査証申請の規定は以下の通り。

1. 受給期間が6カ月以下の者には、在外公館で「停留査証」が発給される。
2. 受給期間が6カ月以上の者には、在外公館で「居留査証」が発給される。
3. 以上の査証については、いずれも査証費用を免除する。

◎ 申請書類提出先・連絡先

台北駐大阪経済文化弁事処 文化教育課

〒530-0005 大阪市北区中之島2-3-18 中之島フェスティバルタワー19F

TEL：(06)6227-8623 FAX：(06)6227-8214 メール：osa-bunka@mofa.gov.tw

研究助成のご担当者様へお願いです

—やずや食と健康研究所は若手研究者を対象とした研究助成に力を入れてます—

2022年度 研究助成「応募要項」の送付について

謹啓 新緑の候、皆様方におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本日はやずや食と健康研究所研究助成に関する資料を送付させていただきます。弊研究所では、科学研究を通して「食べること・生きること」の意味をより明確にし、健やかな体づくり・心づくりに貢献していきたいと考えております。その一環として、2007年より「食と健康に関する科学研究」に対して“研究助成活動”を行っております。

昨年度より引き続き“チャレンジ部門”は応募者と指導者のペアでの応募とし、若手研究者と優秀な指導者の双方を支えてまいります。研究者を目指す若手の育成にご尽力いただく指導者には、モチベーションと責任感を高めていただくためにも指導料をお渡しいたします。また、昨年まで設けていた“キャリアアップ部門”は“研究グループ部門”と部門を見直し、思うように研究を実施できない研究グループや大学研究室を対象とし、どちらの部門も意欲ある研究者への助成に力を入れてまいります。

つきましては、送付資料をご確認のうえ、担当者様へお渡しいただくか、若手研究者の方がご覧になりやすい場所にポスターを掲示していただきますようお願い申し上げます。なお、学内への立ち入り制限がある場合は、メールなどで広く周知いただけますと幸いです。

本年度の研究助成応募期間は 2022年7月1日(金)～8月1日(月) (17時締切)とし、受付は弊研究所ホームページ(<http://yazuken.jp/>)内の専用フォームのみとなります。応募方法の詳細や過去助成研究例は弊研究所ホームページにてご確認ください。

今後とも、弊研究所並びに弊研究所助成活動へのご理解・ご支援のほど、何卒よろしく
お願い申し上げます。

謹白

2022年6月吉日

やずや 食と健康研究所
事務局 大場 明典

〒815-8686

福岡県福岡市南区那の川 1-6-14

TEL : 092-533-1520

Mail : info@yazuken.jp

HP : <http://yazuken.jp/>



食べることは、生きること

やずや食と健康研究所

助成研究募集のお知らせ

「やずや食と健康研究所」では、食品・食物・食生活習慣と健康に関する研究、および、社会活動に対し最大100万円の助成をしております。

募集期間

2022年7月1日(金)～8月1日(月) 17時締切(時間厳守)

募集部門

「チャレンジ部門」および「研究グループ部門」
(詳細は右記および別紙参照)

応募方法

「やずや食と健康研究所」ホームページ内の助成研究募集要項より研究計画調書をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ、申込みフォームからご応募ください。

※なお、「チャレンジ部門」と「研究グループ部門」の併願は認めておりませんのでご了承ください。

やずや食と健康研究所 ホームページ

<http://www.yazuken.jp>



※スマートフォンのみ対応

お問い合わせ

やずや食と健康研究所 事務局 (担当：中村、中、大場、上田)

• TEL : 092-533-1520 • E-mail : info@yazuken.jp

※電話番号はお間違いないようお願いいたします。

あなたの夢を応援します!

「成功率の高い助成研究申請書の書き方」を
公開中!!

presented by

東京大学 佐々木 敏 教授

〈やずや食と健康研究所 評議委員〉



資料はこちら



※無断転載・複製・配布行為はご遠慮ください。

\\ 初応募のチャレンジも大歓迎! //

チャレンジ部門

助教・助手・講師・大学院生 大歓迎

助成対象は、**45歳未満**の研究者、大学院生。

資格・役職は問いません。

研究経験が浅く、新しい研究にチャレンジしたいと考え、日本語でのコミュニケーションが可能であることを条件とします。

最大助成金額は **50万円**です。

チャレンジ部門は、将来研究者を目指す若手の育成・助成を目指して設立しました。そのため、期待できる成果のみならず、独創性および熱意のある萌芽的研究を主に評価します。



NEW

研究グループ部門

研究グループ・大学研究室 大歓迎

助成対象は、ヒトの食行動を科学するために、丁寧に研究を計画・遂行できる研究グループ。

年齢・資格・役職は問いません。複数人の研究者等から構成されるグループで、実務家も含めるなど研究実施体制を反映した構成であることを条件とします。

50万円、100万円のうち、研究計画に沿った希望助成金額を明記して応募してください。論文投稿を前提とする研究デザインであることが必須で、今までありそうでなかった視点での研究を主に評価します。



やずや食と健康研究所とは

私どもは、株式会社やずやが運営する研究助成機関で、研究を通して「食べること・生きること」の意味をより明確にし、健やかな体づくり・心づくりに貢献することを理念に、2007年に設立しました。

以来、理念に合致する研究への助成をメインに活動しております。

数多くのご応募
お待ちしております!



やずや食と健康研究所 2022年度助成研究募集要項

	チャレンジ部門（応募者と指導者のペアでの応募）	研究グループ部門
各部門について	研究者を志す若手を増やし育成するためには、同時に優秀な指導者を支える仕組みが必要であると考えた。 指導者主体の研究を手助けするのではなく、優秀な指導者のもと、若手研究者が自ら適切な計画を立て遂行する。これにより、若手研究者が意義のある研究を行うことができる。 さらに、このチャレンジ部門では、指導者に指導料を支給することで若手研究者育成に対するモチベーションと責任感を高めることも目指す。	ヒトの食行動を科学するため、丁寧に研究を計画・遂行できる研究グループを支援する。研究所が定めた3つのテーマの中から1つ選択し、今までありそうでなかった視点での研究や、該当する研究費助成制度が乏しくその実施を諦めてしまった研究を募集する。
応募資格	<p>■応募者 45歳未満（応募申込期限：2022年8月1日時点）の者。資格・役職は問わない。 研究経験が浅く、新しい研究にチャレンジしたいと考えている若手研究者。 （例）助教、助手、講師、大学院生。現場で働きながら研究する管理栄養士などの実務家。</p> <p>【その他】 事務局との連絡や報告書作成など日本語でのコミュニケーションが可能なることを条件とする。 また、チャレンジ部門は将来独立した研究者を目指す若手の育成・助成を目指すものである。そのため、最終的に論文投稿を推奨する。</p> <p>■指導者 若手研究者が研究を円滑に計画・遂行できるよう、直接、適切な指導ができる研究者。 年齢、役職、助成経験等は問わない。 なお、応募者と異なる所属でも構わない。</p>	<p>■応募者 年齢・役職は問わない。複数人の研究者等から構成されるグループの中から、問い合わせ対応として代表者1名が応募する。 グループ構成者の所属は同一である必要はないが、実務家も含めるなど研究実施体制を反映した構成であること。 （原則）(1)当該分野の研究経験者を1名以上含むこと。 (2)「食」分野の研究経験者を1名以上含むこと（(1)と重複してよい）。 （推奨）当該分野の論文執筆経験者を1名以上含むこと。</p> <p>【その他】 事務局との連絡や報告書作成など日本語でのコミュニケーションが可能なることを条件とする。 また、論文投稿を前提とする研究デザインであることを必須とする。</p>
研究テーマ	<p>大テーマ：「食と健康」 小テーマ：①「食の安全」 ②「食と予防医療」 ③「食と運動」 ④「食と生活」 ⑤「食と社会」 ⑥「食と食育」 ⑦「食と文化」 ⑧「食と健康にかかわる歴史」 ⑨「その他」</p>	①「食と勉強」 ②「食と睡眠」 ③「食とスポーツ・運動」
	<p>■実際の生活の中で食品・食物・食生活と健康との関係を明らかにする研究を募集する。なお、チャレンジ部門においても「ヒトを対象とした研究」が望ましい。 ■物質研究（食品中の特定物質など）、分子生物学的・化学的テーマを主とする研究に関しては、対象外とする。 ■食品・商品開発のための助成は、原則行わない。 ■期待できる成果のみならず、独創性および熱意のある萌芽的研究を主に評価し、助成対象を決定する。</p>	
応募に際しての注意事項	<p>■研究は応募者が主体となって進めることを条件とする。 ■指導者1名を必須とする。</p>	<p>■研究グループが一体となって進めることを条件とする。研究グループ内の共同研究者の所属機関は同一でなくとも構わない。</p>
	<p>■当研究所ホームページ内で公開している記入例（研究計画書【書き方のコツ】応募用紙の書き方・ポイント）を参照すること。 ■同一の研究テーマにて、複数の応募は受け付けない。 ■同時期（2022年12月～）に同テーマの研究で他機関から助成を受ける場合は応募不可。 ■申告に虚偽があった場合には、助成金の返還を求める場合がある。 ■当研究所が要求する研究業績とは『既に発表された論文』のことであり、査読や教科書等への研究業績の一部記載、および学会発表等は含まないものとする。 ■研究テーマと研究内容とが著しく乖離したものや書類に不備があるものについては、審査されないで注意すること。</p>	
募集期間	2022年7月1日(金)～8月1日(月) (17時必着締切)	
結果発表	2022年11月初旬	
助成研究期間	2022年12月初旬より1年間、2年間の助成年限より選択する。 助成研究期間とは、原則としてすべての研究参加者データの解析を終了させる期間を意味する。	2022年12月初旬より1年間、2年間の助成年限より選択する。 助成研究期間とは、原則としてすべての研究参加者データの解析を終了させる期間を意味する。 なお、2年以上の長期にわたり調査・研究を行うことが想定される研究は、研究計画調書の内容から助成期間を検討する。
助成費用	<p>最大50万円を上限とする。 ※助成金の使用用途について研究計画調書から変更が生じる場合は、事前申告のうえ許可のあった項目のみに助成金を使用できるものとする。</p> <p>【指導者への指導料について】 一律5万円を助成費とは別に助成開始時に支給する。</p>	<p>(1) 50万円以下 (2) 51～100万円のうち、該当する希望助成金額の番号{(1)～(2)}を明記の上、応募すること。 ※助成金の使用用途について研究計画調書から変更が生じる場合は、事前申告のうえ許可のあった項目のみに助成金を使用できるものとする。</p>
応募方法	「研究者の皆様の個人情報保護と取り扱いについて」に同意後、表示される入力画面に必要な事項を入力の上、研究計画調書をpdf形式にて添付すること。	
成果報告	<p>◇助成研究成果の当研究所への報告 研究結果は、助成期間終了の翌年1月中旬までに当研究所指定の報告用紙で提出すること。 ※複数年度での助成が採択された場合、各年毎に指定の用紙にて中間報告書を提出すること。</p> <p>◇助成研究成果の発表 論文発表および学会などにおける研究成果の発表に際しては、「やずや食と健康研究所」の助成を受けた旨を記載すること。なお、助成終了後に提出された報告書については、ホームページ内で発表を行う。</p>	

第38回暁烏敏賞 応募要項

あけがらすはや

暁烏敏は、石川県白山市(旧松任市)に生まれ、古今東西の芸術、哲学に関する万卷の書に学び、人々の深い精神について幾多の評論を著し、20世紀前半の精神文化界に大きな影響を与えました。

白山市では、暁烏敏の優れた功績を讃え末永く顕彰するとともに、伝統文化の継承発展と21世紀を担う子どもの育成を図り、有為な人材の輩出を願って「暁烏敏賞」を設け、国内外より懸賞論文を募集します。

募集内容 第1部門「哲学・思想に関する論文」

私たちの将来の生活に展望や示唆を与える研究論文、または哲人や思想家に関する評論、歴史学や民俗学や文学等の著作についての新しい解釈や評論など。

ただし、文章は、論旨が明快かつ独創的で、全体の構成が整っており、表現が明確で平易であること。(青少年にも「読める」論文が望ましい。)

第2部門「子どもの育成に関する論文・実践記録またはエッセイ」

幼児から若者までの育成を目的とした論文、実践記録またはエッセイ。

テーマは、家庭・学校・スポーツ・文化活動・ボランティア・国際交流・子育て・非行防止・安全教育・いじめ・不登校など、その他、子どもの育成に関するもの。

応募規定 400字詰原稿用紙 第1部門は30～50枚以内、第2部門は20～30枚以内。パソコンの場合は、A4判に見やすく印字。(縦書き、横書きいずれも可)すべて未発表のものとし、800字程度の梗概(論文概要)、応募者の氏名(ふりがな)、年齢、住所、電話番号、職業(できるだけ詳細に、学生は学校名・専攻学科)を必ず明記してください。また、製本はクリップまたはステープルとしてください。

賞	第1部門	1編	正賞「火焰様式楽人像」	副賞50万円
	第2部門	1編	正賞「覚華鏡」	副賞30万円

選考委員 梶田 叡一 [日本語検定委員会理事長]
川村 覚昭 [佛教大学元教授(教育哲学)]
山本 哲也 [元NHK金沢放送局 局長]
氣多 雅子 [京都大学 名誉教授]
上原 麻有子 [京都大学 文学研究科教授(日本哲学史専修)]

応募締切 令和4年8月31日(水)必着

応募方法 事務局へ郵送または持参してください。
(暁烏敏賞第1部門または第2部門在中と朱書きしてください。)

選考結果 応募者あてに通知するとともに、市のホームページ上で発表します。

贈呈式 令和4年11月26日(土)

その他 ①以前に入選された方の応募資格はありません。ただし、佳作・奨励賞受賞者は応募できます。
②応募作品は原則としてお返ししません。
③選考経過についてのお問い合わせには応じられません。
④受賞作品についての著作権は、すべて主催者に帰属します。

主催 白山市

応募先・問い合わせ先

白山市観光文化スポーツ部文化振興課

〒924-8688 石川県白山市倉光二丁目1番地

TEL 076-274-9573 FAX 076-274-9546

E-mail bunkashinkou@city.hakusan.lg.jp

前回の入選論文集をご希望の方は、電話等で申し込みください。

白山市のホームページでは、過去の全ての入選論文が閲覧できます。

白山市 暁烏敏賞

検索



第35回

和辻哲郎文化

募集要項



姫路市

趣 旨

姫路が生んだ哲学者和辻哲郎（明治22年～昭和35年）の幅広い業績を顕彰し、あわせて研究者の育成と学術、文化の推進に資するため、昭和63年度に姫路市が創設しました。

一般部門は、和辻哲郎が文学、歴史、芸術などさまざまな領域において横断的かつユニークな著作を世に問い、広範な読者に訴えかけたスケールの大きな学者であったことに鑑み、文化一般におけるすぐれた著作に与えられます。

学術部門は、和辻哲郎が専門とした哲学、倫理学、宗教、思想、比較文化といった領域での学術的水準を備えた、すぐれた研究に与えられます。

選考委員

〔一般部門〕	阿刀田 高（作家）
	辻 原 登（作家）
	山 内 昌 之（東京大学名誉教授）
〔学術部門〕	清 水 正 之（聖学院大学学長）
	野 家 啓 一（東北大学名誉教授）
	関 根 清 三（東京大学名誉教授）

賞

正 賞	蒔絵源氏絵千姫羽子板
副 賞	100万円

対 象

〔一般部門〕 令和3年（2021年）9月1日から令和4年（2022年）8月31日までに発刊された（復刊は除く）著作物（単行本）の中で、日本文化、伝統文化、風土と人間生活との関連等に関するもので国際的普遍性、斬新な視点及び深い思索性のある評論。

〔学術部門〕 令和3年（2021年）9月1日から令和4年（2022年）8月31日までに発刊された（復刊は除く）著作物（単行本）の中で、哲学、倫理学、宗教、思想、比較文化等に関するもので高い水準に達した研究。

※「一般」、「学術」の区分について、詳しくは姫路文学館までお問い合わせください。

応募方法

どなたでもご応募できます。自薦、他薦は問いません（全国の大学等研究機関、図書館、出版社、報道関係等の諸機関に周知および推薦を依頼しています）。

応募規定

付属の推薦用紙等に下記の項目を明記の上、姫路文学館までお送りください（ファクシミリ、電子メールでも可）。自薦（出版社からのご推薦を含む）の場合は、作品（できれば2冊）をお送りください。

- ①部門（一般部門・学術部門） ②推薦作品名（ふりがな） ③著者名（ふりがな） ④出版社名
⑤出版年月日 ⑥推薦者名（ふりがな） ⑦住所 ⑧郵便番号 ⑨電話番号

※このほか推薦理由などございましたらお書きください。

- 当館のホームページからご応募いただくこともできます。

<http://www.himejibungakukan.jp/>

姫路文学館 〒670-0021 兵庫県姫路市山野井町84番地
電話 079-293-8228 F A X 079-298-2533
E-Mail kyo-bungaku@city.himeji.lg.jp



締 切

令和4年（2022年）9月2日（金）（当日消印有効）

*令和4年（2022年）8月中に発刊される作品のご応募が締め切りに間に合わない場合は、その旨を事務局にお知らせください。

発 表

令和5年（2023年）2月（予定） 報道機関を通じて発表します。

授 賞 式

令和5年（2023年）3月5日（日）

第1回(昭和63年度)

一般部門 大久保喬樹『岡倉天心 驚異的な光に満ちた空虚』(小沢書店)

学術部門 ウィリアム・R・ラフルーア『廃墟に立つ理性ー戦後合理性論争における和辻哲郎の位相』(『戦後日本の精神史』岩波書店 所収)

第2回(平成元年度)

一般部門 宇佐美 斉『落日論』(筑摩書房)

学術部門 上山 安敏『フロイトとユング 精神分析運動とヨーロッパ知識社会』(岩波書店)

第3回(平成2年度)

一般部門 中西 進『万葉と海彼』(角川書店)

学術部門 永積 洋子『近世初期の外交』(創文社)

第4回(平成3年度)

一般部門 野口 武彦『江戸の兵学思想』(中央公論社)

学術部門 ヘルマン・オームス『徳川イデオロギー』(ペリカン社)

第5回(平成4年度)

一般部門 郡司 正勝『郡司正勝刪定集』全6巻(白水社)

学術部門 大森 荘蔵『時間と自我』(青土社)

第6回(平成5年度)

一般部門 土居 良三『咸臨丸海を渡るー曾祖父・長尾幸作の日記より』(未来社)

学術部門 加藤 尚武『哲学の使命ーヘーゲル哲学の精神と世界』(未来社)

第7回(平成6年度)

一般部門 堀田 善衛『ミシェル城館の人』全3巻(集英社)

" 山内 昶『「食」の歴史人類学ー比較文化論の地平』(人文書院)

学術部門 関根 清三『旧約における超越と象徴 解釈学的経験の系譜』(東京大学出版会)

第8回(平成7年度)

一般部門 井上 義夫『評伝 D・H・ロレンス』全3巻(小沢書店)

学術部門 阿部 良雄『シャルル・ボードレー【現代性の成立】』(河出書房新社)

第9回(平成8年度)

一般部門 長谷川三千子『バベルの謎 ヤハウィストの冒険』(中央公論社)

学術部門 小野 清美『テクノクラートの世界とナチズムー「近代超克」のユートピアー』(ミネルヴァ書房)

第10回(平成9年度)

一般部門 徳永 恂『ヴェニスへのゲッターにて 反ユダヤ主義思想史への旅』(みすず書房)

学術部門 ノ瀬正樹『人格知識論の生成ージョン・ロックの瞬間』(東京大学出版会)

第11回(平成10年度)

一般部門 嶋田 義仁『稲作文化の世界観 「古事記」神代神話を読む』(平凡社)

学術部門 佐々木 毅『プラトンの呪縛ー20世紀の哲学と政治』(講談社)

第12回(平成11年度)

一般部門 西村 三郎『文明のなかの博物学 西欧と日本』(紀伊國屋書店)

" 渡辺 京二『逝きし世の面影 日本近代素描I』(葦書房)

学術部門 宇都宮芳明『カントと神 理性信仰・道徳・宗教』(岩波書店)

第13回(平成12年度)

一般部門 稲賀 繁美『絵画の東方 オリエンタリズムからジャポニスムへ』(名古屋大学出版会)

学術部門 小林 道夫『デカルト哲学とその射程』(弘文堂)

第14回(平成13年度)

一般部門 岡野 弘彦『折口信夫伝 その思想と学問』(中央公論新社)

" 山折 哲雄『愛欲の精神史』(小学館)

学術部門 ケイト・W・ナカイ『新井白石の政治戦略 儒学と史論』(東京大学出版会)

第15回(平成14年度)

一般部門 長部日出雄『桜桃とキリスト もう一つの太宰治伝』(文藝春秋)

学術部門 木村 敏『木村敏著作集第7巻 臨床哲学論文集』(弘文堂)

" 植村恒一郎『時間の本性』(勁草書房)

第16回(平成15年度)

一般部門 秋山 駿『神経と夢想 私の『罪と罰』』(講談社)

学術部門 塩川 徹也『パスカル考』(岩波書店)

第17回(平成16年度)

一般部門 平川 祐弘『ラフカディオ・ハーン 植民地化・キリスト教化・文明開化』(ミネルヴァ書房)

学術部門 井上 達夫『法という企て』(東京大学出版会)

第18回(平成17年度)

一般部門 新倉 俊一『評伝 西脇順三郎』(慶應義塾大学出版会)

学術部門 佐藤 康邦『カント『判断力批判』と現代ー目的論の新たな可能性を求めてー』(岩波書店)

第19回(平成18年度)

一般部門 大泉 光一『支倉常長 慶長遣欧使節の真相—肖像画に秘められた実像—』(雄山閣)

学術部門 今道 友信『美の存立と生成』(ピナケス出版)

第20回(平成19年度)

一般部門 岩下 尚史『芸者論 神々に扮することを忘れた日本人』(雄山閣)

学術部門 伊藤 邦武『パースの宇宙論』(岩波書店)

第21回(平成20年度)

一般部門 岡谷 公二『南海漂蕩 ミクロネシアに魅せられた土方久功・杉浦佐助・中島敦』(富山房インターナショナル)

学術部門 森 一郎『死と誕生 ハイデガー・九鬼周造・アーレント』(東京大学出版会)

第22回(平成21年度)

一般部門 今橋 理子『秋田蘭画の近代 小田野直武「不忍池図」を読む』(東京大学出版会)

学術部門 互 盛央『フェルディナン・ド・ソシュール〈言語学〉の孤独、「一般言語学」の夢』(作品社)

第23回(平成22年度)

一般部門 杉田 弘子『漱石の『猫』とニーチェ 稀代の哲学者に震撼した近代日本の知性たち』(白水社)

学術部門 権左 武志『ヘーゲルにおける理性・国家・歴史』(岩波書店)

第24回(平成23年度)

一般部門 末延 芳晴『正岡子規、従軍す』(平凡社)

学術部門 中畑 正志『魂の変容 心的基礎概念の歴史的構成』(岩波書店)

第25回(平成24年度)

一般部門 劉 岸偉『周作人伝 ある知日派文人の精神史』(ミネルヴァ書房)

安住 恭子『『草枕』の那美と辛亥革命』(白水社)

学術部門 中島 隆博『共生のブラクシス 国家と宗教』(東京大学出版会)

第26回(平成25年度)

一般部門 池田美紀子『夏目漱石 眼は識る東西の字』(国書刊行会)

学術部門 野本 和幸『フレーゲ哲学の全貌 論理主義論と意味論の原型』(勁草書房)

第27回(平成26年度)

一般部門 亀井 俊介『有島武郎 世間に対して真剣勝負をし続けて』(ミネルヴァ書房)

学術部門 稲垣 良典『トマス・アキナスの神学』(創文社)『トマス・アキナス 存在(エッセ)の形而上学』(春秋社)

第28回(平成27年度)

一般部門 勝又 浩『私小説千年史 日記文学から近代文学まで』(勉誠出版)

学術部門 佐藤 光『柳宗悦とウィリアム・ブレイク 環流する「肯定的思想」』(東京大学出版会)

第29回(平成28年度)

一般部門 山口 諤司『日本語を作った男 上田万年とその時代』(集英社インターナショナル)

学術部門 野矢 茂樹『心という難問 空間・身体・意味』(講談社)

第30回(平成29年度)

一般部門 保阪 正康『ナショナリズムの昭和』(幻戯書房)

学術部門 竹峰 義和『〈救済〉のメディアウム ベンヤミン、アドルノ、クルーゲ』(東京大学出版会)

第31回(平成30年度)

一般部門 平川 新『戦国日本と大航海時代 秀吉・家康・政宗の外交戦略』(中央公論新社)

学術部門 石川 求『カントと無限判断の世界』(法政大学出版局)

第32回(令和元年度)

一般部門 白川 方明『中央銀行 セントラルバンカーの経験した39年』(東洋経済新報社)

学術部門 松井 裕美『キュビズム芸術史 20世紀西洋美術と新しい〈現実〉』(名古屋大学出版会)

第33回(令和2年度)

一般部門 サンドラ・シャール『『女工哀史』を再考する—失われた女性の声を求めて』(京都大学学術出版会)

学術部門 宮本 久雄『パウロの神秘論 他者との相生の地平をひらく』(東京大学出版会)

第34回(令和3年度)

一般部門 三浦 篤『移り棲む美術 ジャポニスム、コラン、日本近代洋画』(名古屋大学出版会)

学術部門 納富 信留『ギリシア哲学史』(筑摩書房)

(姫路文学館のホームページからご応募いただくこともできます。)

第35回 和辻哲郎文化賞候補作推薦書

作 品	部 門	一般部門・学術部門 どちらかに○を付けてください。		
	(ふりがな)			
	書 名			
	出版社	発行日	年	月 日
著 者 名	(ふりがな)			
備 考	経歴等の特記事項			
推 薦 者	(ふりがな)			
	氏 名			
	住 所	〒 TEL() - メールアドレス		
備 考	推薦理由などございましたらお書きください。			

2022年度 第25回

ちゅうでん 児童文学賞

作品募集

ここに届く作品を
お待ちしております

募集期間

2022年
4月1日(金) ▶
8月31日(水)
必着



イラスト:くのみり

● **募集内容** 児童文学作品を募集。自作未発表の作品で、日本語で書かれた作品であること。テーマは自由。

- 大賞の部**
- **応募資格** 不問
 - **応募規定** 原稿はA4判(横長)に40字×30行縦書きで印字し、枚数50~70枚程度。
 - **賞**
 - 大賞**(1編)
賞状および副賞 **50万円**
※他、単行本として出版し、全国の公共図書館などへ寄贈します。
 - 優秀賞**(2編)
賞状および副賞 **各20万円**
- **応募方法** 原稿にはページ数を振り、表紙に、①作品名 ②ページ枚数 ③本名・筆名(ふりがな) ④〒・住所 ⑤電話番号 ⑥年齢 ⑦職業(学校名) ⑧メールアドレスをご記入のうえ、郵送でご応募ください。



第23回大賞 出版本
「シャンシャン、夏だより」
浅野 竜

- さくら賞の部**
- **応募資格** 2022年4月1日時点で19歳までの方
 - **応募規定** 原稿はA4判(横長)に40字×30行縦書きで印字し、枚数20~35枚程度(400字詰め原稿用紙の場合60~105枚程度)。表紙に「さくら賞に応募」と明記のこと。
 - **賞**
 - さくら賞**(1編)
賞状および副賞
図書カード**5万円分**
※他、冊子として発行します。



第23回さくら賞
「一番素敵な夏休み」
林 音々

- **締切日** 2022年8月31日(水) 必着
- **選考委員** 斉藤 洋 / 富安 陽子 / 山極 寿一 (五十音順)
- **結果発表** 2023年3月に財団HPにおいて公表予定
- **その他** 大賞受賞作品の著作権は主催者に帰属します。応募作品は返却いたしません。

(個人情報の取扱いについて)

当財団が取得する個人情報は本事業に関する選考作業、連絡業務、その他確認業務および財団事業に関する広報活動に限定して使用します。当財団は、受賞候補者および受賞者に関する情報(作品名、氏名、都道府県名)を財団ホームページ・情報誌などに掲載するほか、広報活動のために公開します。

ちゅうでん 検索



2022年度 第18回（公財）国際宗教研究所賞
応募要項

公益財団法人 国際宗教研究所

1. 対象

今日的な問題意識に立つ宗教研究において、現代性、国際性、実証性などに優れた点を有する2021年4月1日以降2022年3月31日までに発表された刊行物、および学位が授与された学位論文（博士）。

ただし、歴史的視点から、また国内の問題を扱った業績であっても、内容的に、上記の3点に通ずる特質を有する場合には、積極的な応募を歓迎する。

2. 応募資格

2022年3月末時点で40歳未満の研究者

3. 研究所賞の内容

研究所賞1名 賞状および副賞30万円

受賞に準ずる業績と認められるもので、将来の可能性に富むと認められるものに、奨励賞を授与する場合がある。授与する場合は副賞を10万円とする。

4. 応募締切

2022年5月25日～7月25日 消印有効

5. 選考方法

当財団の役員を含む5名以上で構成される選考委員会で行う。

6. 審査結果

2022年12月中旬以降に本人に通知する。

7. 応募書類

①当財団所定の申請書1部。所定書式は当財団の国際宗教研究所賞公募 URL <http://www.iisr.jp/award/>からダウンロードすること。

②審査対象業績（刊行物あるいは学位論文）1部

※学位論文の場合はPDFデータを収めた記録媒体（CDあるいはDVD）も1部添付すること。

8. 応募書類の提出先

〒165-0035 東京都中野区白鷺 2-48-13

(公財) 国際宗教研究所 研究所賞係

※応募書類は封筒の表に、「国際宗教研究所賞応募書類在中」と朱書し、簡易書留郵便もしくは宅配便・レターパックプラスにより送付すること。

9. 問い合わせ先

(公財) 国際宗教研究所 研究所賞係

電話 03-5373-5855

FAX 03-5356-7525

E-mail info@iisr.jp

10. その他

①応募書類は原則として返却しない。

②応募書類の個人情報については、審査以外の目的には使用しない。

令和4年5月吉日

大阪大学
文学部事務担当部局 御中

諸橋轍次博士記念漢詩大会
大会名誉会長 諸橋 達人
諸橋轍次記念館長 嘉代 隆一

第14回諸橋轍次博士記念漢詩大会 作品募集について（お願い）

新緑の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
日頃より諸橋轍次博士記念漢詩大会について、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本大会は、漢学研究にその生涯を傾けた諸橋轍次博士を記念して漢字文化の伝統を継承すべく、優れた漢詩作品を顕彰するとともにベテランから初心者まで多くの方々からご応募いただくことを目的に実施しております。

つきましては、日中国交正常化50周年記念 第14回諸橋轍次博士記念漢詩大会開催にあたり下記のとおり漢詩を募集いたします。ご多忙のところ恐縮ですが、学内等施設に同封のポスター等をご掲示いただき、学生から多数のご応募を賜りますようご理解とご協力をお願い申し上げます。

なお、この大会は新潟県教育委員会のご後援をいただき実施しております。

記

1 漢詩募集期間 令和4年5月1日（日）～7月31日（日）

2 大会日程及び応募要領等

別紙「日中国交正常化50周年 第14回諸橋轍次博士記念漢詩大会募集要項」参照

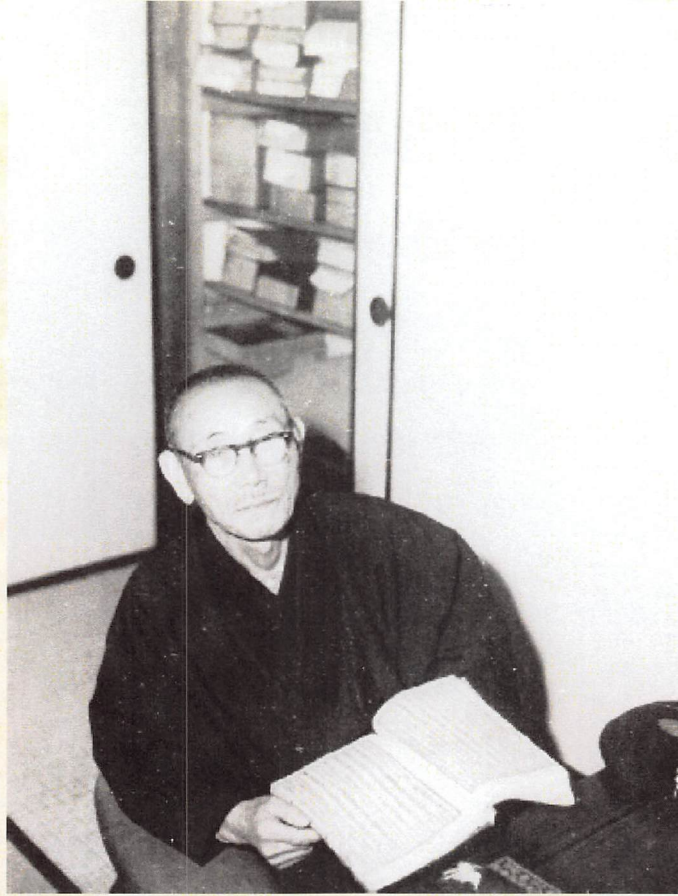
上記大会の日程、内容については、新型コロナウイルス感染予防対策のため変更することがございます。当館ホームページをご覧くださいか又は諸橋轍次記念館に直接お問い合わせを願います。

以上

—お問合せ先等—

〒955-0131 三条市庭月 434-1
諸橋轍次記念館 漢詩大会係
電話・FAX 0256-47-2208

漢字文化を次代へ



諸橋轍次の愛した
漢詩の世界へようこそ

日中国交正常化50周年記念
第14回 諸橋轍次博士記念漢詩大会
募集要項

応募締め切り

令和4年7月31日(日)

漢詩大会

記念講演会

令和4年11月12日(土)午後2時～3時30分

表彰式・流觴曲水等

令和4年11月13日(日)午前10時～午後1時

会場

諸橋轍次記念館

日中国交正常化50周年記念 第14回 諸橋轍次博士記念漢詩大会 募集要項

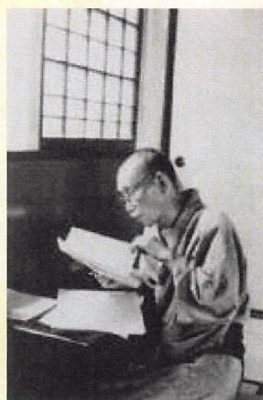
明治16(1883)年に下田村庭月(現在の三条市庭月)に生まれた諸橋轍次は、漢学研究に情熱を傾け、昭和57(1982)年に数え年100歳で亡くなるまで漢字文化の伝統を研究しました。また同時に伝統を単に古いものとして示すのではなく、『大漢和辞典』をはじめとする多くの著書をつづけて、現代社会に役立つものとして意義を示しました。

日中国交正常化50周年にあたり、諸橋轍次の生誕地を中心に漢学の里を整備する三条市諸橋轍次記念館では、その志を継承すべく下記募集要項により全国の皆様から漢詩を募集いたします。

1:応募区分 「一般の部」、「学生(大学生以下)の部」、「日中友好の部」の3部門を設けます。

- 2:応募条件**
- (1) 詩体は七言絶句のみとします。
 - (2) 題は自由題とします。ただし、「日中友好の部」に応募する場合は、日中友好に関する詩とします。
 - (3) 書き下し文(ふりがな付き)を併記してください。
 - (4) 「一般の部」「学生の部」は、一人2首まで応募できます。「日中友好の部」は、一人1首の応募とします。(合計一人3首まで応募が可能です。)
 - (5) 未発表の作品に限り応募できます。
 - (6) 「第13回諸橋轍次博士記念漢詩大会」において、最優秀賞、優秀賞を受賞された方は、今大会は「一般の部」「学生の部」の「招待詩家」として1首ご応募願います。
 - (7) 今大会に限り国外中国詩家は「日中友好の部」へ応募することができます。
応募は、中国駐新潟総領事館を通じて行われます。

3:応募方法 郵送・インターネットのいずれかの方法でご応募ください。



- 郵送**
募集要項に添付した応募用紙を用いてください。
*応募用紙は第14回諸橋轍次博士記念漢詩大会ホームページからダウンロードできます。
宛先 〒955-0131 新潟県三条市庭月434-1 諸橋轍次記念館 漢詩大会係

- インターネット**
下記の手順で投稿してください。
1 morotetsu34@yahoo.co.jp に空メールを送信してください。
2 上記アドレスからの自動返信メールに記載された投稿フォームにアクセスしてください。
3 投稿フォームに必要な事項を入力して完了ボタンをクリックしてください。
*投稿フォームはパソコン、スマートフォンに対応しています。
*morotetsu34@yahoo.co.jp は投稿専用メールアドレスです。

4:応募料

一般	1首1,000円ただし、「日中友好の部」への応募(1首)は無料です。
学生・生徒	無料
招待詩家	無料

応募料のお支払いは、郵便払込取扱票による方法のみの受付となりますのでご注意ください。
郵便振替口座、加入者名は下記のとおりです。

郵便払込取扱票
郵便振替口座 00530-2-103665
加入者名 諸橋轍次記念館

5:応募受付期間 令和4年5月1日(日)~7月31日(日)
郵送の場合は締め切りの7月31日当日消印まで有効。



6:入賞(予定)

「一般の部」、「学生の部」とともに、作品審査に応じて、次の賞を予定しています。最優秀賞（諸橋轍次賞、中華人民共和国駐新潟総領事賞、新潟県知事賞、三条市長賞、新潟県教育委員会教育長賞）、優秀賞、秀作、佳作、奨励賞、特別賞（大修館書店賞）なお、「日中友好の部」においても、最優秀賞（「日中友好賞」）、優秀賞、秀作、佳作などを予定しています。

*入賞者には記念品・大会誌（全入賞作品などを掲載）を贈呈します。

*「一般の部」「学生の部」応募者には大会誌を贈呈いたします。

7:審査員

(日本)審査員長 大地武雄 二松學舎大学名誉教授 (中国)審査員 温瑞 吉林省詩詞学会会長
 (日本)審査員 鷺野正明 国士舘大学教授 (中国)審査員 邵紅霞 吉林省詩詞学会副会長
 (日本)審査員 後藤淳一 法政大学講師

8:審査

「一般の部」、「学生の部」の審査選考は日本側審査員の責任と権限において合議で行い、入賞作品を決めます。

「日中友好の部」の審査は、日中両国の審査員がそれぞれ自国の応募者作品の審査を担当し、両国審査員合議により入賞作品を決めます。

審査についての問い合わせおよび異議は受理いたしません。

9:発表

令和4年10月上旬(予定)、漢詩大会特設ホームページで発表。入賞者には個人宛に通知。

10:大会日程(予定)

記念講演会	令和4年11月12日(土)	午後2時～3時30分
漢詩愛好者の集い (懇親会)	令和4年11月12日(土)	午後6時～8時
		*会場 嵐溪荘 参加費7,000円
表彰式・流觴曲水等 (雨天中止)	令和4年11月13日(日)	午前10時～午後1時

11:返却

応募作品は返却しません。投稿作品の控えはご自身でコピーしてください。

12:著作権と出版権

作品の著作権は著作者本人に帰属します。ただし諸橋轍次記念館の出版物(販売するものを含む)・ホームページなどに無償で活用させていただきます。また、「日中友好の部」に応募した作品は、中華人民共和国駐新潟総領事館の出版物(非販売物に限る)、ホームページに掲載される場合があります。なお、前記刊行物以外の出版物へ転載する場合は著作者の同意を前提とします。

13:個人情報

応募者から提供された個人情報は今後の諸橋轍次博士記念漢詩大会の公募告知および諸橋轍次記念館の各種事業の告知に利用することがあります。入賞者については、応募票に記載された氏名、雅号、都道府県・市町村名を大会誌に記載するほか、報道機関・関係機関に提供する場合があります。

14:その他

- (1) 無料送迎バスの運行（上越新幹線「燕三条駅」および信越本線「東三条駅」から諸橋轍次記念館までの間）を予定しています。
- (2) 大会日程、内容等につきましては、新型コロナウイルス感染予防対策など社会事情により中止・変更することがあります。

15:作品送付・問い合わせ

諸橋轍次記念館 漢詩大会係
 住所 〒955-0131 新潟県三条市庭月434-1 TEL・FAX 0256-47-2208
 E-mail kangaku@city.sanjo.niigata.jp
 諸橋轍次博士記念漢詩大会特設ホームページ
<https://www.kangaku-morohashi.com/course/諸橋轍次博士記念漢詩大会/>
 *上記サイトより募集要項・応募用紙をダウンロードできます。

記念講演(予定)

- ・ 日時 令和4年11月12日(土)午後2時～3時30分
- ・ 会場 諸橋轍次記念館 (入場無料)
- ・ 講師 岩手大学 副学長 藪 敏裕 先生
- ・ 演題 中国詩の原点『詩経』について



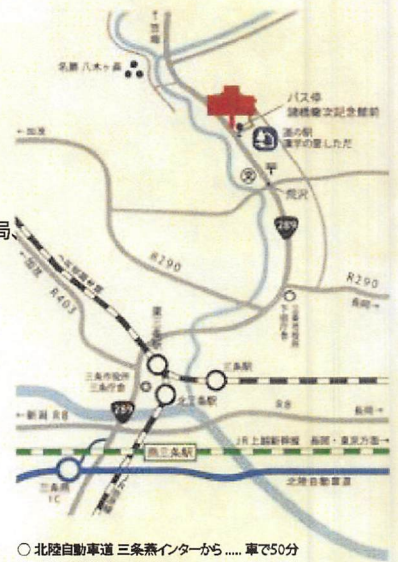
諸橋轍次記念館



流觴曲水

主催・後援・事務局

- (1)主催 諸橋轍次記念館
- (2)後援 中華人民共和国駐新潟総領事館、新潟県、新潟県教育委員会、(株)大修館書店、二松学舎大学、読売新聞新潟支局、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、日本経済新聞社新潟支局、産経新聞社新潟支局、新潟日报社、三條新聞社、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、NCT
- (3)運営事務局 諸橋轍次記念館漢詩大会係
(お問い合わせ先)
〒955-0131 新潟県三条市庭月434-1
TEL・FAX 0256-47-2208
E-mail kangaku@city.sanjo.niigata.jp



- 北陸自動車道 三条インターから 車で50分
- 上越新幹線 燕三条駅から 車で50分
- 信越線・弥彦線 東三条駅から 車で35分
- 越後交通バス 東三条駅前から 40分
(八木ヶ鼻温泉行き、諸橋轍次記念館下車)



日中国交正常化50周年記念
第14回 諸橋轍次博士記念 漢詩大会 応募用紙

主催者記入欄 (記入しないでください)

応募区分	一般の部	学生の部	日中友好の部	応募首数	1首	2首	3首
------	------	------	--------	------	----	----	----

(注) 応募区分・応募首数を「○」で囲んでください。学生、生徒は学校名をご記入願います。

【学校名

ふりがな	
氏名	
ふりがな	
雅号	
住所	〒
連絡先	電話 FAX E-mail
生年月日 (年齢)	明大昭平 年 月 日生 (歳) (西暦 年)

(注) 生年は和暦、西暦のいずれかでご記入願います。

【意向をお聞かせ願います】

<p>■ 記念講演会 11月12日 (土)</p> <p>1 参加したい</p> <p>2 不参加</p>
<p>■ 記念講演会送迎バス利用 11月12日 (土)</p> <p>1 利用したい</p> <p>乗車場所 (燕三条駅 ・ 東三条駅)</p> <p>2 利用しない</p>

<p>■ 漢詩愛好者の集い(懇親会) 11月12日 (土)</p> <p>参加費 7,000円</p> <p>1 参加したい *後日、振込用紙を郵送します。</p> <p>2 不参加</p>

(注) 1 各項目の番号に「○」を付けてください。

2 記念講演会送迎バスは、「燕三条駅 ⇄ 東三条駅 ⇄ 諸橋轍次記念館」間です。(無料運行)

3 運行時刻は、後日利用者へ連絡します。

【応募料払込証明貼付】

「一般の部」に応募する方は、郵便振替払込受領証の写しを貼付して下さい。

※招待詩家・学生・生徒は無料です。
※「日中友好の部」に応募する作品は無料です。

応募用紙は切り離さないでください

整理番号

主催者使用欄 (記入しないでください)

←主催者使用欄 (記入しないでください)

							漢詩 (楷書で丁寧に書くこと)
						題目	

							書き下し文 (ふりがなをつけてください)
						題目	

〔注意〕 原則として、漢詩は正字体を用い、書き下し文は常用漢字体を用いてください

第十四回 諸橋轍次博士記念 漢詩大会 応募用紙 (一首目)

日中国交正常化50周年記念

(一般の部・学生の部)

